

日本看護歴史学会 会報

日本看護
歴史学会
第78号
2022年7月15日

日本看護歴史学会第36回学術集会のご案内

健康科学における看護科学の発展

— 東大看護の歴史から —

日 時：2022年8月26日（金）・27日（土）
会 場：ハイブリッド方式 リモート参加および東京両国 KFC Hall & Rooms
オンデマンド配信 2022年9月1日（木）～9月30日（金）
学術集会長：矢野 正子（聖マリア学院大学 名誉学長、元・東京大学医学部教授）



矢野正子学術集会長

令和4年の今と
なってもまだコロ
ナ・ウイルスへの
警戒はありますが、
第36回学術集会を
ハイブリッド方式
により東京両国に
ある上記の会場で

開催することになりました。今年はロシアのウクライナ侵攻という事態も起き、世界の状況にも目を離せない日々ですが、私たちは自国の看護史を学ぶとともに世界の看護史にも関心を持ち、それらからわが国のこれからの看護制度や看護教育をより良いものに構築していくという任務が課せられているのではないかと思います。

第36回学術集会のテーマは、表題に示したように東大看護の歴史です。昭和28年（1953）に戦後わが国で大学教育として2番目に開設された東大医学部衛生看護学科での看護教育はどのような道をたどって今日に至るのか。また、東大医学部付属病院は、安政5年（1858）のお玉ヶ池種痘所を起源とし160年余の歴史があり、明治20年（1887）に始まったわが国最初の官立の看護教育や看護の歴史はどのようなであったのか。各々の歴史を学びます。

東大医学部衛生看護学科は、「看護婦に大学教育をしてどうするんだ」と言われた時代に発足し入学は女子のみで12年間続きましたが、昭和40年（1965）に保健学科と改称されて女子のみのコースは廃止となり、駒場の教養学部からの進学生が選ぶコースとなりました。保健学科は27年間続いた後に平成4年（1992）には再び改称されて健康科学・看護学科となりました。そして健康科学・看護学科は18年間続いた後に平成22年（2010）に現在の健康総合科学科となり今年はその12年目に当り、延べ69年が経過しています。

この69年の間に看護を学んだ人たちは、卒業してからどんな活動・考え方を持っているのでしょうか、学術集会ではその実際や経験などを講演やシンポジウム（テーマ「東大看護の多様性」）などで発表していただき、ご参加の皆様との議論を期待しております。

これらの他に例年にならって理事会セッションや交流セッションを、また、口演・示説など盛り沢山に企画しております。

看護の歴史研究への関心を高め、それによる示唆を得てさらに学びを広げる機会となれば幸いです。皆様のご参加をお待ちしております。

日本看護歴史学会第36回学術集会プログラム

8月26日（金）

大会長講演

東大看護コースの特性と卒業後のワークライフ

演者：矢野 正子（聖マリア学院大学 名誉学長）

座長：丸山 マサ美（九州大学大学院）

記念講演

東大病院の看護のあゆみと医学部附属看護学校、助産婦学校の歴史

演者：小見山 智恵子（国際医療福祉大学生涯学習センター看護部門統括責任者）

座長：矢野 正子（聖マリア学院大学 名誉学長）

特別講演 I

東大の看護教育で大きく広がった活動の場

演者：清水 嘉与子（前日本訪問看護財団 理事長、元参議院議員）

教育講演 I

看護の専門性を求めて—東大看護学講座との出会いから—

演者：秋山 智弥（名古屋大学医学部附属病院 卒後臨床研修・キャリア支援センター教授）

シンポジウム 「東大看護の多様性」

一般演題

理事会セッション I（戦争と看護シリーズ）

基地問題から考える—復帰50周年の沖縄の今

演者：渡瀬 夏彦（ノンフィクションライター）

司会：川嶋 みどり（日本赤十字看護大学）、佐々木 秀美（広島文化学園大学）

理事会セッション II（特別委員会）

沖縄の離島・へき地医療：島民に寄り添う

演者：津波 勝代（公益社団法人地域医療振興協会・沖縄地域医療支援センター顧問）

司会：滝内 隆子（金沢医科大学）、城丸 瑞恵（北海道公立大学法人札幌医科大学）

交流集会

8月27日（土）

教育講演 II 石垣 和子（前石川県立看護大学 学長）

特別講演 II 廣野 喜幸（東京大学大学院 総合文化研究科広域科学専攻基礎科学系科学史・科学哲学研究室）

理事会セッション III（研究推進委員会企画）

歴史から学ぶ「環境・社会・看護」—過去の出来事から知的好奇心と学修力を育む—

演者：鈴木 紀子（国際医療福祉大学小田原保健医療学部）

司会：丸山 マサ美（九州大学大学院）

一般演題

会場案内：KFC Hall & Rooms 10階および11階

所在地：〒130-0015 東京都墨田区横網1-6-1 国際ファッションセンタービル

最寄駅：都営地下鉄大江戸線 両国駅（A1出口）徒歩0分／

JR総武線 両国駅（東口・西口）徒歩約7分

参加登録のご案内

1. 参加登録 日本看護歴史学会第36回学術集会ホームページの参加登録

（<http://plaza.umin.ac.jp/~jsnh36/apply.html>）の参加登録フォームに必要事項を入力しオンライン登録をお願いします。

参加登録締切：会場参加（100名程度）7月15日（金）まで

リモート参加者は2022年8月10日（水）まで

それ以降はリアルタイムでは参加できません。

オンデマンド参加者（9月1日（木）から配信開始予定）は9月22日（木）まで

どの参加形式でも、抄録集は8月23日までに郵送いたします。

(8月20日以降のオンデマンド参加申し込みについては、申し込みあり次第の発送となります)

※参加登録がうまくいかない・参加費支払方法などお問い合わせは、

〒271-8558 千葉県松戸市岩瀬550 聖徳大学看護学部日下研究室内

TEL: 080-6082-3277 e-mail: jnshc36-gakkai@umin.ac.jp

2. 参加費

参加費: 会場参加者 学会員8,000円 非学会員9,000円

リモート参加者 学会員7,000円 非学会員8,000円 学生(大学院生除く) 1,000円

オンデマンド参加者 学会員5,000円 非学会員6,000円 学生(大学院生除く) 1,000円

参加費支払期限: 参加登録後1週間以内

支払方法: ※参加登録を進めていただきますと、振込先などをご案内します。

3. Web開催について

- ・ライブ配信のタイムスケジュールは、Web会場および抄録集に掲載します。
- ・Web会場への入り方(ログイン)、視聴方法のご案内を抄録集に掲載します。
- ・抄録集は参加登録いただいたご住所へ紙媒体(冊子)でお届けします。(オンデマンド開始前予定)
- ・参加登録、参加費支払後にWeb会場ログインが可能になります。ログインには参加登録時のメールアドレスとご自身で設定するパスワードが必要です。必ず控えておいてください。お問い合わせいただいても事務局ではわかりかねます。
- ・パソコンやスマートフォン等によりWeb会場にログインして、会期中、演題等を視聴することができます。参加登録をしていない方が同席しての視聴はお控えください。講演・演題等の録画やダウンロードはできません。ご理解とご協力をお願いします。

理事会セッションⅠ：戦争と看護シリーズ(8月26日ハイブリッド方式)

基地問題から考えるー復帰50周年の沖縄の今

演者: 渡瀬 夏彦氏(ノンフィクションライター)

司会: 川嶋 みどり(日本赤十字看護大学)

佐々木 秀美(広島文化学園大学)

本学会学術集会恒例の「戦争と看護」を柱とするセッションも9回目となった。折しも、ロシアによるウクライナへの侵攻が世界の人々の耳目を集めているが、戦争が兵士のみではなく無辜の人々の生命を奪い、あらゆる面で不条理がまかり通ってしまうことを目の当たりにしている。しかし、決して対岸

の火事として見過ごすことはできない。あの大戦時に本土決戦の捨て石になって多くの犠牲者を出しながら多くの土地を奪われ、今なお広大な基地を抱える沖縄。復帰50周年の今だからこそ、改めて基地問題を通して、人間のいのちと尊厳を担保する平和についてともに考える場にしたい。

理事会セッションⅡ：特別委員会(8月26日ハイブリッド方式)

沖縄の離島・へき地医療：島民に寄り添う

講師: 津波 勝代(公益社団法人地域医療振興協会・沖縄地域医療支援センター顧問)

司会: 滝内 隆子(金沢医科大学)

城丸 瑞恵(札幌医科大学)

沖縄県は160の島々で成り立っており、それぞれの島の特殊性を踏まえた医療・看護が求められます。その中で、津波氏は公立久留米病院の副院長兼看護部長として、長年、医療・看護体制の充実に向けてご尽力されてきました。島の文化や伝統・歴史を尊重する、また島の特性から課題解決の可能性を探

ることを信念として島内で働く看護師の育成、“訪問看護つむぎ”の開設、住民健診事業の院外活動など離島・へき地医療のアプローチ方法の構築・実践をされてきました。沖縄の離島の歴史・伝統を踏まえた看護実践の内容から今後の地域医療を展望する上の視座を得られると考えています。

理事セッションⅢ：研究活動推進委員会（オンデマンド）

歴史から学ぶ「環境・社会・看護」

—過去の出来事から知的好奇心と学修力を育む—

講師：鈴木 紀子（国際医療福祉大学）

司会：丸山 マサ美（九州大学大学院）

研究推進委員会では、第35回学術集会から、歴史の視点を授業に取り入れている模擬授業を紹介しています。今年度は、近代化の産業の発達と共に環境が蝕まれ、また企業の安全管理がなされていないことで、その犠牲となった人々に焦点をあてます。近年サリドマイド薬が多発性骨髄腫などの治療薬とし

て臨床薬として復活していることや、カネミ油症事件、森永砒素混入事件など、現在も続いている出来事を中心として組み立てた講義を、今回はご紹介いたします。時間は90分とし、ディスカッションもできるように時間設定をしました。多くの方の参加をお待ちしています。

学会総会について

第36回日本看護歴史学会学術集会ハイブリット開催に伴い、学会総会は昨年同様紙面による決議を行うこととさせていただきます。議事案につきましては、同封の総会資料をご高覧いただき、返信用紙への記入後、同封封筒（後払い）をご使用いただき、事務局宛にご投函下さい。書面表決書での返信（8月15日金曜日〆切）にご協力をお願い申し上げます。結果につきましては、本学会HPにて公開いたします。

事務局よりお知らせ

会費振込の際のお願い

会員の皆様には、会費納入いただきありがとうございます。ごぞいます。

○住所変更や、退会通知は、振込用紙への記入ではなく変更届用紙にてご提出ください。

○重複のお支払いなど余剰金がある場合は、翌年度会費への充当とさせていただきます。



新入会員紹介(敬称略)

* () 内は会員番号 2022年1月～6月初旬

守田加寿子 (22001)	張 平平 (22002)
吉田 静 (22003)	北出 順子 (22004)
櫻井 一江 (22005)	程塚 京子 (22006)
藤 健二郎 (22007)	宮本 敦子 (22008)
丸山 南海 (22009)	宮本 大樹 (22010)
高橋 牧子 (22011)	小竹久実子 (22012)



お知らせ

■事務局から

2022年度会員動向（2022年1月～6月初旬現在）

1. 会員数	301名
2. 入会者	12名
3. 退会者	13名（1名ご逝去）

■編集委員会からのお知らせ

学会誌投稿論文送付先は下記の通りです。

お間違えのないようにご注意ください。

〒150-0012 東京都渋谷区広尾 4-1-3

日本赤十字看護大学

日本看護歴史学会編集委員会

鷹野 朋実 宛

編集後記

新型コロナウイルス感染拡大が収まりつつあり、ほっとしたのも束の間、今度はウクライナ侵略戦争と辛いニュースです。今回の学会でも過去から学ぶセッションが用意されております。多くの方の会員のご参加を願います。 (く) 編

日本看護歴史学会会報 第78号

企画・編集 川原由佳里（日本赤十字看護大学）
黒田 裕子（太成学院大学）

発行責任者 丸山マサ美（事務局）

印刷 有限会社 新和印刷

事務局 〒812-8582
福岡市東区馬出 3-1-1
九州大学大学院医学研究院
保健学部門内
事務局 丸山マサ美
TEL & FAX 092-642-6710（直通）
E-mail 2rekishi@med.kyushu-u.ac.jp

学会 HP <http://plaza.umin.ac.jp/~jahsn/>